

15 すぐそばにいませんか、ヤングケアラー（子ども）

（ナレーター）皆さん、いかがお過ごしですか。福岡市がお送りする「こころのオルゴール」の時間です。今日は私、岡澤アキラがお届けします。

5 最近、「ヤングケアラー」という言葉をよく耳にします。本来大人が担うような家事や家族の世話を日常的に行っている、18歳未満の子どものことをいいます。

10 例えば、親に代わって幼いきょうだいの世話をし学校を休みがちになったり、障がいのある家族の入浴や介助をするため、部活動の時間や友だちと遊ぶ時間が奪われたりして、「子どもとしての時間」を失っている子どもたちがいます。病気の家族の代わりに買い物や料理などの家事をして自分の勉強の時間がとれず、進路に悩む子どももおり、その状況はさまざまです。

15 子どもが家事や家族の世話をすること自体が問題なわけではありません。しかし、負担が大きすぎるケアを担うことは、子どもの健康や学びなどに影響を及ぼし、子どもの権利を侵害することにつながるのです。

20 令和2年度に国が実施した初の全国調査では、公立中学2年生のおよそ17人に1人がヤングケアラーに該当すること

が分かりました。

25 福岡市では、こうした子どもたちや家族のための相談窓口を令和3年1月に開設。令和4年7月末までの相談延べ件数は243件ありましたが、子ども本人からの相談は少なく、ほとんどが学校や福祉機関、家族、親戚など、周囲の方から寄せられたものでした。

30 なぜ、当事者の子どもからの相談は少ないのでしょうか？

その理由としては、小さい頃からずっと続いてきた今の生活が当たり前と思っ、自分がヤングケアラーという自覚がない、相談すると家族の悪口を言うようで気がとがめる、などがあります。また、教師に話しても宿題ができない言い訳ととられて「きつと分かってもらえない」と、あきらめる子どももいます。

40 周りからは見えにくい家庭の中で、悩みやつらさを一人で抱え込んでいる子どもたちが、あなたのすぐそばにもいるかもしれません。

45 このように、実態が表面化しにくいことがヤングケアラー特有の問題です。地域の子どもたちに目を配り、見えないヤングケアラーにできるだけ早く気づいて、支援につなげることが大切です。

(本文888字)